

陝西省墳墓壁画の記録保存についての方法研究 (②セ03-10-2/2)

目 的

近年発見が相次いでいる中国陝西省の墳墓壁画は、建設工事など壁画保護を優先できない環境にあるため、そのほとんどがはぎ取り、考古研究所等への移動という対応が取られているが、発見直後の環境の変化に始まり、はぎ取り、移動のための処理によって破損や変色・褪色が発生している。貴重な壁画に関する情報をできる限り保存し、壁画の状態変化が最も少ない現場での調査実施と記録保存方法を構築することを目的として、日中で共同研究を行う。

成 果

2010年度は、前年度の調査実績をもとに墳墓壁画の考古発掘現場での調査実現を目指し、準備を進めたが、秋までの間に陝西省での壁画墓の発掘がなく、現場調査は実現しなかった。このため、前年度の作成した報告書の中国語版を作成し、西安市において陝西省の各機関の専門家を集めた研究会を実施し、調査手法についての評価を求めた。さらに壁画が出土してから文化財として保存されるまでの全工程において、どのような記録保存が求められ、それぞれの現場においてどのように現実的に対応するかを討論し、今後の共同研究についてその可能性を考えた。

(1) 陝西省考古研究院若手研究員の来日研修

共同研究へ若手研究員を積極的に参加させることを目的として、6月12日から7月5日の日程で、陝西省考古研究院助理研究員邵安定氏を招聘し、共同研究の内容・意義についての理解を深めさせるとともに、文化財に応用される理化学研究全般にわたる基本的技能を習得させた。また高松塚古墳壁画修理施設、奈良文化財研究所等の施設見学の他、奈良、京都の世界遺産地を視察して日本の文化遺産保護の理念と方法について理解を図った。

(2) 調査計画の立案

8月中旬に5日間の日程で陝西省涇南地区の唐時代壁画墓を調査する計画を立て、準備を進めた。しかし、陝西省側の都合により調査が取りやめとなり、以後秋季にかけては壁画墓の発掘がなかった。12月以降になり4ヶ所程の壁画墓が発見されたが、厳冬期に入り、調査体制が作れず、今年度の現場調査を断念した。

(3) 2009年度報告書中国語版の作成

2009年度報告書の全文を中国語へ翻訳し、陝西省考古研究院と共同で校訂を行って中国語版300冊を作成し、陝西省を中心とする中国の関係機関、専門家に配布した。

(4) 研究会の開催

2月14日、陝西省考古研究院で壁画の記録保存と修復技術に関する研究会を開催した。会議には陝西省考古研究院の他、西北大学文博学院、陝西省文物保護修復センター、陝西歴史博物館、西安師範大学、咸陽市文物保護修復センター、中国文化遺産研究院の専門家21名が参加し、会議を通じ今後より多くの機関と分野の専門家が参加して壁画保護の技術面での交流を促進していくことの必要性が話し合われた。同日午後、咸陽市文物保護修復センターの収蔵庫、修復室を視察し、とくに剥ぎ取り後の壁画の状況について観察を行った。

研究組織

○岡田健（文化遺産国際協力センター）、高林弘実、佐藤香子（以上、客員研究員）